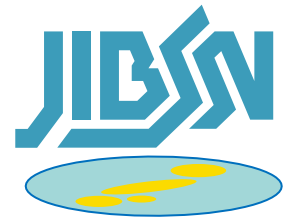


# 境界地域研究ネットワーク JAPAN

## Japan International Border Studies Network



JIBSNは、日本の各境界地域の経験と交流をもとに、実務者と研究者との意見交換の場として機能し、このネットワークを通じて、境界地域を活性化させる様々なアイデアやプランが生み出されることが期待されています。またネットワークは日本国内の内向き議論に終始せず、隣接する諸外国や欧米の境界地域研究ネットワークと広く接合し相互に緊密に協力しあうことで、大きな視野での問題解決や地域発展に寄与することをも構想しています。

事業活動の内容としては、

- (1) 国内外の境界地域に関する調査及び研究の企画、実施及び支援、
- (2) 境界地域の地方公共団体の交流、連携及び情報発信の支援、
- (3) 境界地域研究の成果の相互活用と共有化及び公開、
- (4) 境界地域の自立と活性化に寄与する政策提言、
- (5) 人材育成のための連携及び協力、

などが挙げられ、これら諸活動を通じて境界地域の抱えるさまざまな課題に適切に対処し、その発展に寄与するために奉仕します。

根室にエトピリカ文庫開設 (2007年) ▶



◀ 与那国=台湾チャーター便就航 (2011年)

## JIBSNの活動 2012~2013

- 2012年2月12-17日 小笠原リトリート
- 2012年8月26-31日 稚内セミナー・サハリンリトリート
- 2012年9月10日 国境(くにざかい)フォーラム IN 隠岐(協力)
- 2012年11月13-16日 BRIT XII-2012 福岡・釜山大会(共催)  
40ヵ国から220人参加  
JIBSN企画「JAPAN SPECIAL」を開催
- 2012年12月18日 エトピリカ文庫・小笠原(母島)開設セレモニー
- 2013年1月12日 第502回沖縄大学土曜教養講座(協力)
- 2013年1月13日 沖縄大学移動市民大学(協力)
- 2013年1月22日 JIBSN設立一周年記念シンポジウム

## JIBSN への歩みと取り組み

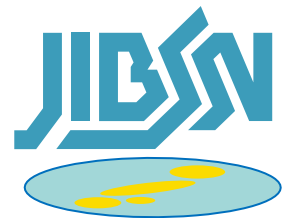
- 2007年9月 国境フォーラム(日本島嶼学会与那国大会)・根室にエトピリカ文庫設立
- 2008年6月 国境フォーラム・特別セミナー(「返還40周年:国境島嶼としての小笠原を考える」)(北海道大学)
- 2008年10月 国境フォーラム(小笠原・父島:小笠原復帰40周年記念関連事業)
- 2009年7月 北海道大学GCOE「境界研究の拠点形成」正式立ちあげ[日本の国境地域ネットワークの設立を公約]
- 2009年10月 北海道大学総合博物館GCOEブースにエトピリカ文庫併設
- 2009年12月 GCOE第1回国際シンポジウム(北海道大学)、国境フォーラム IN 根室
- 2010年1月 『日本の国境・いかにこの「呪縛」を解くか』(北海道大学出版会)刊行
- 2010年度 国境ネットワークづくりのための笹川平和財団助成開始
- 2010年11月 国境フォーラム IN 対馬[JIBSNづくりの道程スタート] 対馬・厳原にエトピリカ文庫開設
- 2011年5月 JIBSN設立プレ企画・与那国/台湾セミナー 与那国にエトピリカ文庫開設 与那国=台湾チャーター便の就航実現
- 2011年9月 国境(くにざかい)フォーラム IN 徳之島(日本島嶼学会主催)
- 2011年10月 『日本の国境』が第24回地方出版文化功労賞受賞
- 2011年11月 「境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN)」正式旗揚げ 設立記念シンポジウム「激論北方領土問題 現場からの眼差し」(札幌)



JIBSNは、境界地域の地方公共団体、境界地域研究に関わる研究・教育機関、境界地域の調査・研究などに関わる団体・組織などを主たる構成メンバーとしております。関係する皆さまのご参加とご支援を心よりお願い申し上げます。参加ご希望の団体、個人の方は下記のURLからお申し込みください。

<http://src-hokudai-ac.jp/jibsn/application.html>

# エトピリカ文庫



グローバルCOEプログラム  
境界研究の拠点形成

**エトピリカ文庫**とは、第6回大佛次郎論壇賞（2006年：朝日新聞社）によりなされた寄附をもとに根室市により、2007年に北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」に設置された文庫です。エトピリカとは、千島列島や根室地域で境界を越えて飛び回る海鳥であり、その名称とロゴには、北方領土問題の解決と日ロ間の国境が自由に往来できる日を待ち続ける地元のみなさんの思いが込められています。文庫にはロシアに関する文献のみならず、様々な日本の境界地域の書籍・映像資料も収められています。

2009年10月、北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」は企画展示ブースを北大総合博物館に開設するにともない、書籍コーナーを設けました。これはそのときどきの展示に関連した書籍や詳しい資料を来館者に手にとってもらおうとの意図でつくられましたが、境界研究のシンボルとして、根室市からエトピリカの名前を頂くとともに、看板の寄贈を受けました。

現在、プログラムでは、境界地域のネットワークづくりを行っていますが、その一環として全国関連自治体でのエトピリカ文庫の設置をお手伝いしています。

- エトピリカ文庫（2007年9月開設）根室・北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」
- エトピリカ文庫・札幌（2009年10月開設）北海道大学総合博物館
- エトピリカ文庫・対馬（2010年11月開設）対馬交流センター内つしま図書館
- エトピリカ文庫・与那国（2011年5月開設）与那国町複合型公共施設
- エトピリカ文庫・小笠原（母島）（2012年12月開設）母島村民会館

エトピリカ文庫・小笠原母島は、今後、他の文庫と同様に寄附などによって蔵書構築をはかりますが、遠隔離島ゆえの書籍購入の難しさから、北海道大学のフロンティア基金を利用しての運用となります。小笠原・母島へのご支援をよろしく申し上げます。ご協力いただける方は、JIBSN事務局までその旨をご連絡ください。フロンティア基金の申し込み用紙をお送りします。

【事務局】〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学スラブ研究センター内  
境界地域研究ネットワーク JAPAN 事務局

E-mail: jibsn@borderstudies.jp TEL: 011-706-2382 FAX: 011-706-4952

\*北大フロンティア基金では税制上の優遇措置が受けられません。下記のサイトをご参考ください。なお振り込み方が通常の基金への寄附とは異なりますので、基金事務局ではなく、かならずJIBSN事務局に直接お申し出ください。 <http://www.hokudai.ac.jp/fund/>

エトピリカ文庫・対馬、エトピリカ文庫・与那国への支援も併せてお願いします。

エトピリカ文庫・対馬への支援について <http://bonin.ti-da.net/c151042.html>

エトピリカ文庫・与那国への支援について <http://bonin.ti-da.net/e3541118.html>

エトピリカ文庫について詳しく知りたい方は、下記のサイトをご覧ください。

<http://borderstudies.jp/museum/etupirka/>



札幌



対馬



与那国



小笠原

# DVD『知られざる国境 BRIT XII-2012 Fukuoka/Busan』 JAPAN KOREA 一般リリース



北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」が企画・監修し、HBCフレックスが制作の「知られざる国境」シリーズの最新作「BRIT XII - 2012 Fukuoka/Busan」が完成しました。

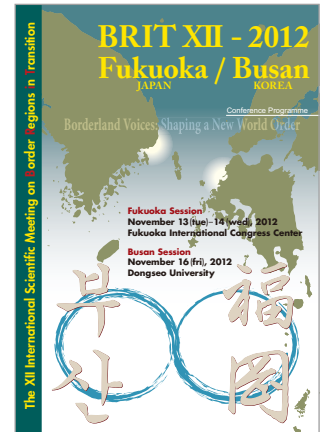
BRIT (Border Regions in Transition)は、世界的な境界・国境研究者のネットワークで、数年に一度行われる世界大会は必ず隣接する二つの国を跨いで開催されるという、とてもユニークな運営方法で行われています。

2012年11月13日から16日に行われた第12回大会はBRIT史上初の東アジアでの開催となり、福岡と釜山で行われました。



福岡から釜山への移動には、JR九州のビートル(高速船)をチャーターして対馬に渡り、フィールドトリップを行いました。

大会は40カ国220名の参加者が集まり、活発な議論が繰り広げられました。



福岡でのセッション



釜山でのセッション

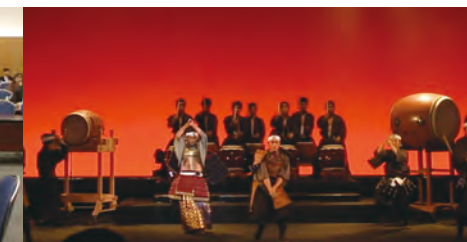


JIBSNメンバーが中心となった「ジャパンスペシャル」



福岡・釜山 学生討論会

九州大学と東西大学の学生による討論会



対馬市民劇団によるミュージカル「対馬物語」公演



対馬フィールドトリップ：日露慰霊の碑にて

この映像はユーストリームで、1月22日から公開される予定です。

JIBSN 設立記念シンポジウム「激論 北方領土 現場からの眼差し」  
(2011年11月27日・札幌)もユーストリームでご覧いただけます。

<http://www.ustream.tv/user/gekiron-hoppo-j>

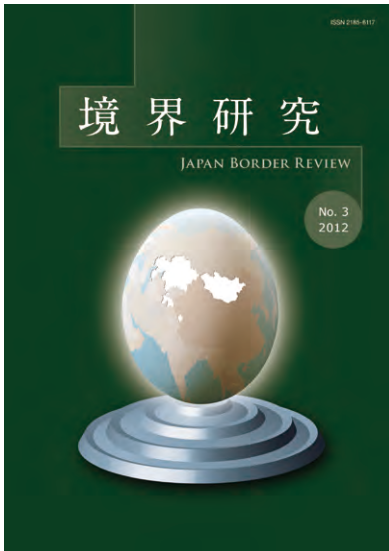
\*YouTubeでもご覧いただけます。「hokudaiGOE」で検索してください。



# 『境界研究』第3号 発行



グローバルCOEプログラム  
境界研究の拠点形成



北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」が発行する  
レフェリー制学術雑誌、「境界研究」の第3号が発行されました。

## ■ 論文

シェンゲン情報システム (SIS) の現状と課題 —「国境のないヨーロッパ」の国境管理とITシステム—  
須田 祐子 前田 幸男

ヨーロッパ・地中海を揺れ動くポストコロナルな境界 —イタリア・ランペドゥーザ島における移民の「閉じ込め」の諸形態—  
北川 真也

ミラン・ホジャの中欧連邦構想 —地域再編の試みと農民民主主義の思想—  
福田 宏

ゲンナジイ・アイギのロシア語詩におけるヴォルガの不在  
後藤 正憲

占領と抵抗の相克 —被占領地のパレスチナ人市長を事例に—  
鈴木 啓之

植民地権力と越境のポリティクス —膠州湾租借地におけるドイツ統治を再考する—  
浅田 進史

## ■ 研究ノート

中ロ国境交渉の今 —ヘイシャーズ島から考える—  
岩下 明裕 伊藤 薫

## ■ 書評

板橋拓己著『中欧の模索：ドイツ・ナショナリズムの一系譜』創文社、2010年  
宮崎 悠

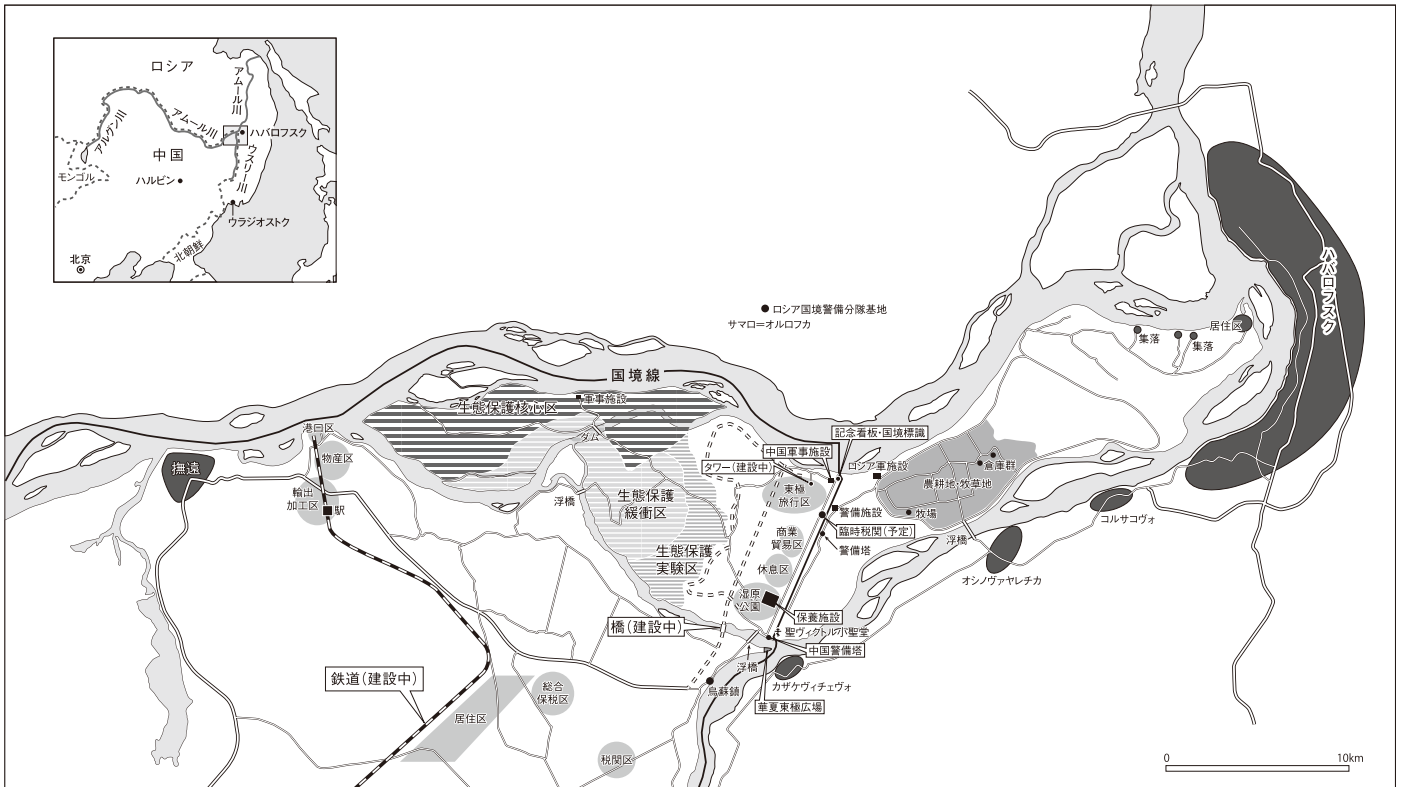
津田博司著『戦争の記憶とイギリス帝国：オーストラリア、カナダにおける植民地ナショナリズム』刀水書房、2012年  
左近 幸村



レフェリー制欧文学術雑誌  
「Eurasia Border Review」

「境界研究」、「Eurasia Border Review」ともに、  
掲載論文のPDFファイルを下記URLからダウンロードできます。

<http://borderstudies.jp/achievements/public3/>



「フィフティ・フィフティ」原則でロシアから中国に割譲され、分割されたヘイシャーズ島 (ロシア名：ポリショイ・ウスリースキー島およびタラバーロフ島) の中国側の開発計画。「中国最東の地」として、自然保護区と組み合わせた観光地化と、物流の拠点とする意図が見て取れる。(『境界研究』第3号 140 ページに掲載)